

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
選抜(Ⅰ): 2/3(水) 選抜(Ⅱ): 3/7(月)~3/8(火)	選抜(Ⅰ): 1/20(水)~25(月) 選抜(Ⅱ): 2/15(月)~18(木)	選抜(Ⅰ)(Ⅱ) 3/14(月)	各学年の学年末の成績を5段階で評価する $(5\text{教科} + \text{実技}4\text{教科} \times 2) \times 3\text{年間} \div 195 \times 130$ $(5 \times 5 + 4 \times 5 \times 2) \times 3 \div 195 \times 130 = 130\text{点満点}$

教育のプロ
トライさん



傾向

昨年度に引き続き、平成28年度でも定員削減される。

安芸南高校40人、高陽高校40人、呉工業高校40人、福山商業高校40人の削減。

合否は内申130点、学力検査125点とほぼ同等。内申は1年次から反映され、福教科は2倍換算となる。

⇒3年生は志望校合格ラインの総合点を見極め、当日何点取ればいいのかを判断する必要がある。

学力検査では特定の教科に比重を置く傾斜配点を実施する学校や、自校作成問題を出題する学校、定員枠の10%~20%を内申か学力検査重視で合否判定する学校が増加。自校作成問題は、志望校に合わせた対策が必要になる。

科目別対策

英 語

一昨年に傾向が変わり、昨年も同様の出題傾向。リスニング、図表を用いた対話文、長文読解、短文作文。聞き取りAは本文と質問文が2回ずつ読まれる。5W1Hに注意して聞き取ろう。英文を書かせる問題が多く、基礎的な文法や単語の復習をしておこう。難しい文章を書こうとせず、条件に合った文章を簡単な単語で書けるように練習しておくこと。

数 学

例年通り計算問題8問で全体の3割の配点を占めている。難易度は総合的に高め。時間配分はもちろん、目標点に対しての問題の取舍選択が重要になってくる。計算問題は満点を取れるように、速く正確に解く練習をしよう。正答率10%程度の難問も出題さるので、高得点を狙う方はここで差をつけよう。統計問題が3年連続出題されているので注意が必要。

国 語

小説、論説、古典、作文で4問。漢字の書き取りは年々正答率が上がっているので全問正答をめざすこと。記述では文章中の抜き出しではなく、文中の語句を利用して自分の力でまとめる力が求められる。ここ数年、古典では漢文からの出題がないが、油断せず対策をしておくこと。作文は、平成26年度は120字、27年度は55字の条件作文が出題された。

理 科

出題単元は毎年変わるが、物理、化学、生物、地学各範囲からまんべんなく出題される。そのため、不得意分野をなくしておくことが重要なポイントである。一問一答形式のみの練習では対応できない問題が多いので、実験の過程や結果、根拠を理解しておく必要がある。地学では、その年の異常気象や地震、火山噴火などをテーマに出題されることがある。

社 会

出題形式は大きく変わらず、歴史、地理(世界、日本)、公民から出題。歴史は年表問題と並べ替え問題が隔年で出題される傾向があり、昨年度は並べ替え問題が出題された。各分野で論述問題があり、例年4~5問ほど出題されているが、昨年は6問出題された。資料を根拠にした論述をする必要がある。時事問題からも多く出題されるので、ニュースを見ておこう。